

平成 27 年晩秋の万世大路を歩く

- その 4 -

4. 昭和の大改修、「昭和の七曲坂」その 2(第 2 号カーブ→昭和の第 3 代目新沢橋)

前節に引き続き「昭和の七曲坂」として、第 2 号カーブ（残存明治期初代万世大路入口）からその下の第 2 段目と第 1 段目の道路（第 1 号カーブ、第 2 号カーブ）と昭和の第 3 代目新沢橋までとを〈その 2〉として報告する。当該区間は前記の通り昭和の大改修で新設されたバイパス相当の道路となる。また、移転された殉職警察官之碑についても報告する。

【写真順序】 →第 2 号カーブ（残存明治期初代万世大路入口）→第 2 段目・第 1 段目道路（第 1 号カーブ）→殉職警察官之碑※→昭和の大改修第 3 代目新沢橋

※「殉職警察官之碑」について詳しく知りたい方は大滝会 HP の下記を参照されたい。

「殉職警察官之碑について」

<http://ootaki.xsrv.jp/morimoto.pdf>



写真-39① 昭和の「七曲坂」第 2 号カーブ。第 3 段目道路側から望む。右下は、第 2 段目道路。



写真-39② 昭和の「七曲坂」第 2 号カーブ、明治期初代万世大路入口。右奥に伸びている。手前は昭和の大改修によるバイパス道路となる第 2 段目道路。左上は明治期初代万世大路を補修したと云われる第 3 段目道路。



写真-39③ 第2号カーブ・明治期万世大路入口から望む。左第2段目道路、右第3段目道路。中央に老杉大木が見える。



写真-39④ 第2号カーブ箇所 of 榎と藤蔓。中央横線は第3段目道路。榎の背後に第3段目道路の老杉大木が見える。



写真-39⑤ 第2号カーブ・明治期初代万世大路入口から旧道を望む。この先新沢橋米沢側の直上に掘割、左折して新沢右岸沿いに初代万世大路があり旧新沢橋で新沢を横断する。



参考写真-20 入口(第2号カーブ)から150mほど進んだ峰先に掘割が造られている。写真の奥が新沢。昭和期新沢橋米沢側直上。明治期万世大路にて、米沢側から福島側を望む。H241129



参考写真-21 掘割手前(米沢側)の明治期初代万世大路から移転後森元巡查殉職碑(昭和の大改修・2代目万世大路=旧国道13(5)号道路敷地内)と、写真右上、3代目万世大路(栗子ハイウエイ)・現国道13号を望む。H250427



参考写真-22 明治期初代万世大路・掘割、米沢側から福島側を望む。写真中央岩盤崩壊箇所が「巨岩ノ挺出」跡と思われる。旧道は、崩落土で覆われているため通り抜けできない。H250427(2)



参考写真-23 新沢右岸(西側)残雪箇所が残存明治期初代万世大路、勾配がある。左端が掘割、その右が崩壊した「巨岩ノ挺出」岩盤跡。右側を行くと旧新沢橋に至る。新沢左岸(東側)から望む。H250427



参考写真-24 「明治期初代万世大路、旧新沢橋(2代目)福島側から、米沢側・掘割方向(右岸)を望む。旧新沢橋は「大回坂」起点と仮定される。また、U字形カーブ「大曲」の頂点に位置する。H250427



写真-40① 第2段目道路、第2号カーブ付近から第1号カーブ方向を望む。第2段目道路は、昭和の大改修により新設されたバイパス道路。



写真-40② 第2段目道路中間部から昭和第1号カーブを望む。



写真-40③ 第2段目道路側から第1号カーブを望む。



写真-40④ 「昭和の七曲坂」第2段目道路全景・第1号カーブ(福島側)から第2号カーブ(米沢側)望む。



写真-41① 第1号カーブ、第2段目道路側から望む。



写真-41② 第1号カーブ、第1段目道路側から望む。



写真-41③ 第1号カーブ、第1段目道路側から望む。



写真-41④ 第1号カーブ付近のガードレール(初期のタイプと思われる)。



写真-42① 第1段目道路(西側部分)、第1号カーブ付近から新沢橋方向を望む(1)。昭和の大改修によるバイパス道路。



写真-42② 第1段目道路(西側部分)、新沢橋方向を望む(2)。



写真-42③ 第1段目道路(西側部分)、第1号カーブを望む(1)。



写真-42④ 第1段目道路(西側部分)、新沢橋方向を望む(3)。倒木あり。



写真-42⑤ 第1段目道路(東側部分)、新沢橋方向を望む(4)。間知石積(空積)と倒木。



写真-42⑥ 第1段目道路(東側部分)、第1号カーブ方向を望む(2)。見事な間知石積が続いている。



写真-42⑦ 第1段目道路(東側部分)、新沢橋方向を望む(5)。



写真-42⑧ 第1段目道路(東側部分)、第1号カーブ方向を望む(3)。



写真-42⑨ 第1段目道路(東側部分)、新沢橋を望む(6)。殉職警察官之碑(左)と昭和の第3代目新沢橋(右)。福島側を望む。



写真-43 移転後の「殉職警察官之碑」(昭和35年9月26日当初建立箇所はモリモト、写真-30②参照)。昭和61年12月当該地に移転、右側は移転説明碑。殉職碑は、明治21年1月5日ニツ小屋巡査駐在所への帰路の途中猛吹雪で遭難した森元源吾巡査の慰霊碑。



写真-44① 新沢橋米沢側から望む。本橋は3代目。初代新沢橋はL=14.5m、w=6.4mの木造土橋で本橋から200m上流に明治時代(M10.10~M14.6の間)に架設された。2代目は橋台橋脚がコンクリート製(参考写真-24参照)で上部工は木造土橋 L=20mに初代箇所では架け替えた(昭和4年頃と推定)。



写真-44② 昭和の大改修鉄筋コンクリートアーチ橋「新沢橋」(L=42m、W=6m)S10.4~S11.12、C=18千円。内務省職員(後福島国道改良事務所長、関東地建局長)和里田新平氏設計による。福島側下流より望む。



写真-44③ 福島側上流より望む。



写真-44④ 米沢側下流より望む。



参考写真-25 完成した3代目新沢橋、立派な鑄鉄製高欄が取り付けられている。昭和12年頃。『60年の歩み』より。



参考写真-26 高欄のない新沢橋。優雅な鑄鉄製高欄(参考写真-25参照)は、戦前昭和16年(1931年)8月の「金属回収令」により供出された。無高欄の状態で30年代半ばまで供用。昭和31年(1956年)夏の福島工事事務所の現地調査。小林泰夫調査課長(左二人目)、山谷外行技術員(右二人目)



参考写真-27 ガードレール高欄が取り付けられた新沢橋。米沢側を望む。
(昭和36年9月26日、大滝会榎木新吉さん撮影提供)

写真無し空白

おわりに

本報告書は、「平成 26 年大滝会万世大路秋期探訪会報告」の続編とでも云うべきものである。昨年の探訪会では時間の関係もあって現地へ行けなかったためモリモト～新沢橋間について十分な報告ができなかった。今回はその区間について写真をたっぷり掲載している。

なお、今回は写真を中心とした報告としているので、明治期及び昭和期「七曲坂」等について興味を持たれる向きには前記 [「平成 26 年大滝会万世大路秋期探訪会報告」](#) の解説を参照して頂きたい。

謝辞

本報告書の写真配置など編集に当たっては、大滝会HP管理人紺野文英様にいつものようにお世話になりました。衷心から感謝申し上げます。

次ページに 巻末参考写真、参考図-1、参考図-2 を添付する

巻末参考写真



巻末参考写真-1 旧国道13号(万世大路)、ニツ小屋隧道～新沢橋間全景(昭和の大改修区間)。オクモダ沢(東栗子Tu左側)とデドモダ沢(新沢橋南向い)中間点炭焼箇所から望む。昭和31年10月11日大滝会副会長高野英治氏撮影提供

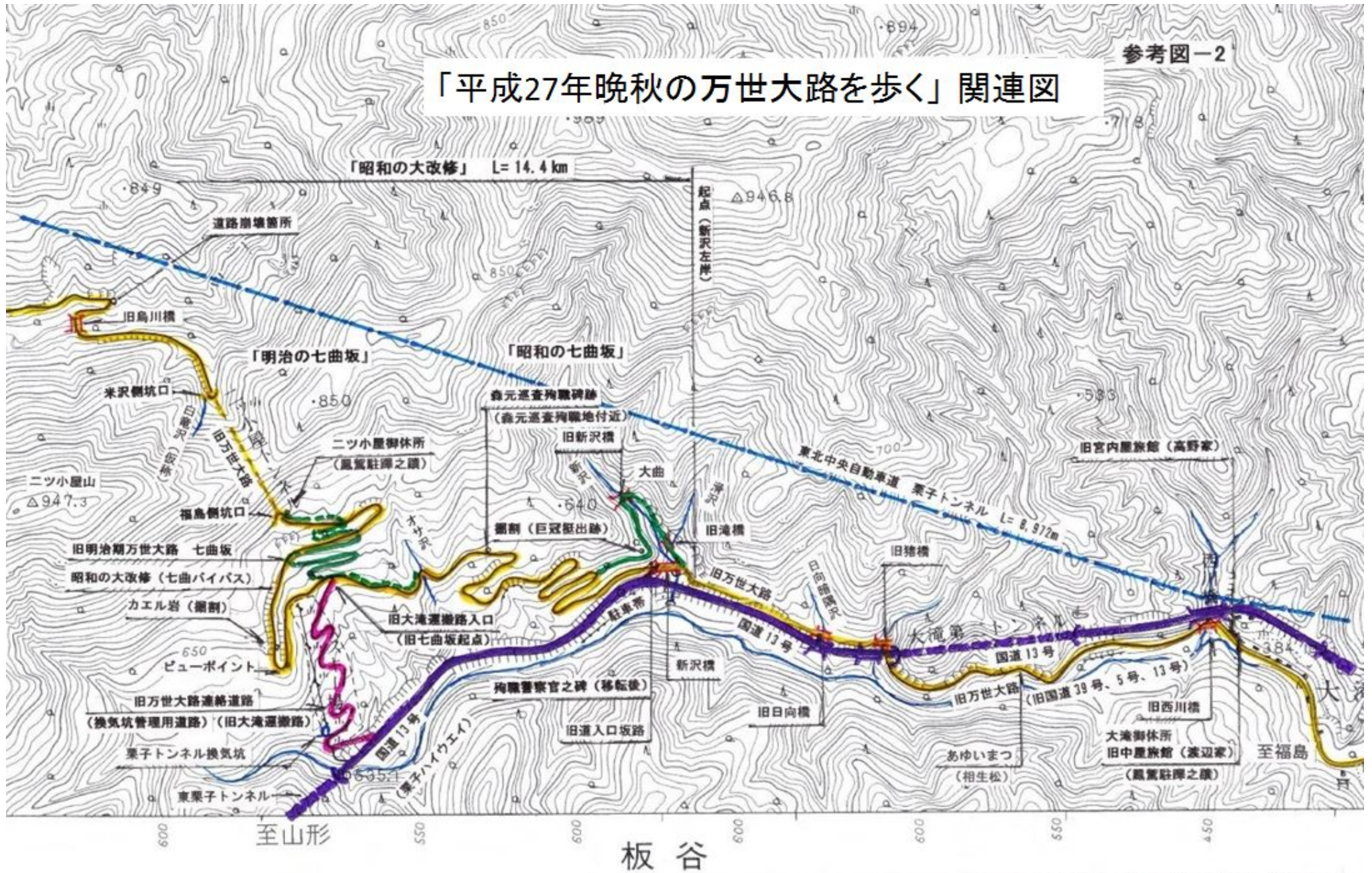


巻末参考写真-2 大滝運搬路全景(昭和39年頃)と旧万世大路(旧国道13号)



巻末参考写真-3 昭和の大改修工事中の「七曲バイパス」と旧「七曲坂」全景。(ニツ小屋隧道福島側坑門はS8.12月完成)昭和9年6月頃

「平成27年晩秋の万世大路を歩く」関連図



「この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（栗子山）を使用しました。」